

中学校国語 A (主として「知識」に関する問題)

平成27年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

国語に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。漢字、慣用句、言葉の意味や使い方、話し合い活動の仕方、文章の読み取り、書写などが出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
1.5%上回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
国語A	77.3	76.0	75.8	+1.5



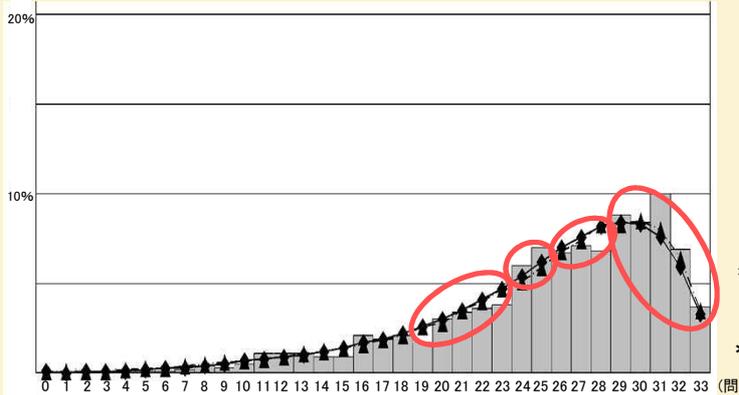
誤答の様子は…



分布の様子は…

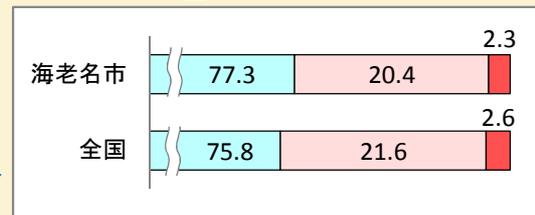
《正答数による分布》

■ 海老名市 -▲- 神奈川県 ◆ 全国



《誤答の内訳(%)》

■ 正答 □ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)



無解答率(何も書かなかった)は2.3%でした。

全国と比較すると
正答数が24~25問、29問以上の生徒が多く
19~23問、26~28問の生徒が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~16問)の生徒の割合は9.0%でした。(全国は9.9%)

* 正答率80%以上(27~33問)の生徒の割合は51.7%でした。(全国は49.3%)

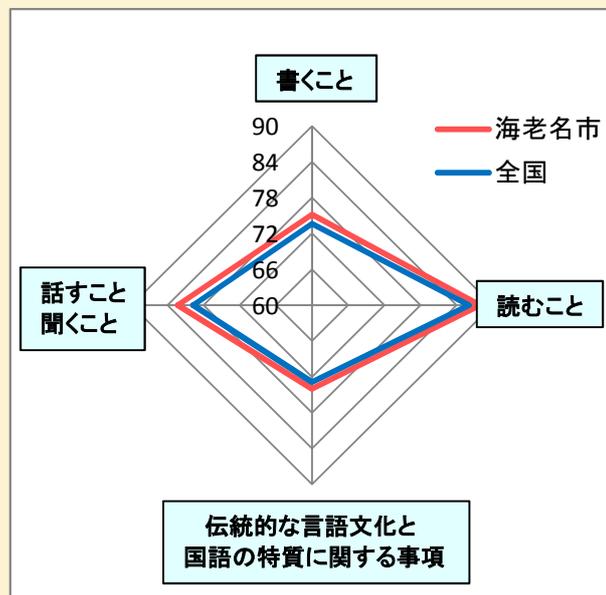
領域別の正答率

全領域において全国と比較して
やや上回っています

	海老名市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	82.3	79.7	+2.6
書くこと	75.2	73.6	+1.6
読むこと	87.9	86.1	+1.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.0	72.9	+1.1

* 「話すこと・聞くこと」については、2.6%上回っていました。

* その他の3つの領域についても、1.0%以上上回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問	○ 「青さ」という言葉の品詞を選ぶ。(+8.0)
	○ 「□の下の力持ち」の□に入る漢字を選ぶ。(+5.4)
	○ インタビューの記録を読んで、質問者の意図を表している文を選ぶ。(+4.3)

全国を下回った設問	○ 文を読んで表現技法の名称を選ぶ。(擬態語) (-2.7)
	○ 漢字を書く。(余った) (-1.7)
	○ 「□□□□雲の間から」の□□□□に入る言葉を選ぶ。(-1.4)

国語Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

文を読んで表現技法の名称を選ぶ設問 (全国との比較-2.7)

* 宮沢賢治「風の又三郎」の一部を読んで

○ _____ 線部①「どてをぐるっとまわって、どンドン正門をはいって来ると」と書いてありますが、ここでの表現の工夫として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 擬態語が用いられている。 2 倒置法が用いられている。
3 体言止めが用いられている。 4 直喩が用いられている。

正答 1

☆国語Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考 察

- ◆ 全国に比べて、正答数が29問以上の生徒が多く、28問以下の生徒が少ない傾向があることから、基礎的な力はおおむね身につけている。
- ◆ 文章表現技法や手紙の書き方については、全国に比べて平均正答率が下回っている設問があり、指導の工夫が求められる。
- ◆ 「話すこと・聞くこと」の領域については、全国に比べて平均正答率が特に高く、授業とともに教育活動全般での取組の成果がうかがわれる。

平成26年度との比較

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
平成26年度	80.8	79.2	79.4	+1.4
平成27年度	77.3	76.0	75.8	+1.5

◆ 昨年度と比べて、平均正答率の差がほぼ同じである。

◆ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域については、引き続き課題が見られる。

指導の改善にむけて

- ◆ 「言語事項を確実に習得する」ために
 - 習得した漢字を文章の中で適切に使うように指導する。
 - 表現技法、慣用句の意味や理解など、基礎的な事項を十分に指導する。
 - 国語以外の教育活動においても、漢字の正しい使い方や文の構成について指導するように心がける。